トピックス

日本一の酒米「山田錦」の生誕 90 年

2026 年は本県育成の酒米品種「山田錦」が生誕 90 年を迎える年である。本品種は生産量、酒造適性の評価、酒米品種育成への貢献度等から「日本一の酒米」の評価を得ている。2025 年には「兵庫の酒米「山田錦」生産システム」が日本農業遺産に認定され、さらなる生産振興が期待されている。

内　容

1936 年に兵庫県が育成した酒米品種「山田錦」は、2026 年 2 月 27 日で誕生から 90 年を迎えた。「山田錦」はその優れた酒造適性により、質・量ともに日本一の酒米である。2025 年産の全国の酒米の検査数量は 94,672t で、そのうち「山田錦」は 33,842t と 35.7%を占める。「山田錦」は、現在、全国 40 府県で生産されており、兵庫県はそのうち最大の 54%の 18,274t を生産している。兵庫県産「山田錦」だけで酒米全体の 19.3%を占める最大の銘柄である（図 1）。

酒造家からは「山田錦」を原料に使うと酒造りが安心して行えるという声が多く聞かれ、精米から麹（こうじ）造り、発酵のもろみ管理など複雑な酒造りの工程を経て、できあがった酒は香り高く、まろやかで優しい味の酒になると言われている。酒の品質を競う「全国新酒鑑評会」（酒類総合研究所主催）では、出品酒の約 8 割は「山田錦」を原料とし、そのうち 7 割以上が兵庫県産「山田錦」を使用している。

誕生から 90 年、「山田錦」の生産量は、時代の変化の中で変動してきたが、1980 年頃からの吟醸酒ブームにより、「山田錦」の酒造適性への評価が高まり、日本酒全体の消費量が大きく減少する中でも、一定の水準を維持し続けている。

2025 年産の全国の酒米（醸造用玄米）の品種数は 130 品種である。また、1845～2024 年までに全国で育成された酒米品種は約 180 品種である（図 2）。そのうち、1936 年の「山田錦」以降には 150 品種が育成されているが、その中で 83 品種は「山田錦」を祖先とする。このように、「山田錦」は育種母本としても、大きく貢献している。

2025 年 1 月 24 日には、「兵庫の酒米「山田錦」生産システム」が日本農業遺産に認定され、さらなる生産振興が期待されている。

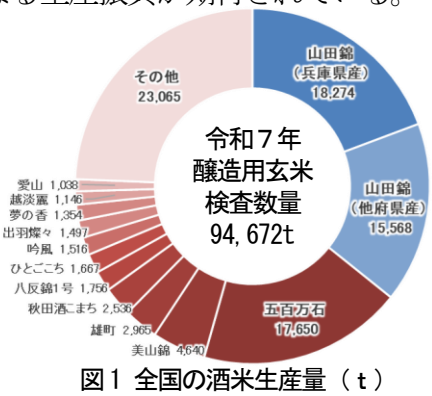


図 1　全国の酒米生産量（ｔ）

令和 7 年産酒造好適米の生産状況等（農水省）から作図

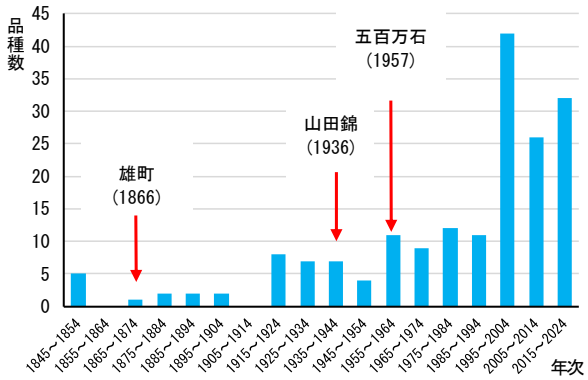


図 2　年次別酒米品種育成数

今後の方針

近年の気候温暖化は、玄米品質や酒造適性に悪影響を与えている。そこで、酒米試験地では温暖化による白未熟粒や胴割れ米に関する研究に引き続き取り組んでいく。また、画像解析技術を使った酒米の品質評価や、高温耐性品種育成に向けた母本の探索などに取り組んでいく。

松川　慎平（農産園芸部）